

あきる野市教育委員会 6 月定例会会議録

- 1 開催日 平成27年6月25日(木)
- 2 開催時刻 午後2時00分
- 3 終了時刻 午後3時25分
- 4 場所 あきる野市役所 5階 505会議室
- 5 日程 日程第1 協議事項(1)「あきる野市地域子ども育成リーダー制度の活用」について  
日程第2 報告事項(1)平成27年度中学生海外派遣事業の実施中止について  
日程第3 教育委員報告
- 6 出席委員 委員長 山城清邦  
委員長職務代理者 田野倉美保  
委員 丹治充  
委員 宮田正彦  
教育長 宮林徹
- 7 欠席委員 なし
- 8 事務局出席者 教育部長 森田勝  
指導担当部長 肝付俊朗  
生涯学習担当部長 関谷学  
教育総務課長 小林賢司  
教育施設担当課長 清水保治  
指導担当課長 西山豪一  
学校給食課長 木下義彦  
生涯学習スポーツ課長 鈴木将裕  
スポーツ・公民館担当課長 吉岡賢  
図書館長 松島満  
指導主事 梶井ひとみ

指 導 主 事

櫻 井 欣 也

9 事務局欠席者 なし

開会宣言 午後 2 時 0 0 分

委員長（山城清邦君）

皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、あきる野市教育委員会 6 月定例会を開催いたします。

本日は、教育委員全員が出席しておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項に規定する定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

本日は傍聴の希望がありますので、許可いたします。

それでは、議事日程に従って会議を進めてまいります。

まず、会議録署名委員の指名については、丹治委員と田野倉委員を指名いたします。

それでは、議事に入ります。

日程第 1 協議事項（1）、「あきる野市地域子ども育成リーダー制度の活用」についてを上程いたします。教育長から説明をお願いいたします。

教育長（宮林 徹君）

今日は議案がありませんので、このことについて委員の方からいろいろなお話を伺って、どう進めていけばいいのか、教育委員会としての考え方を話し合っておいた方がよいのかなと思って、この度協議事項の議題として提案するところであります。

まず、ご承知のようにあきる野市は市長が強い思いを持って、「子どもが主役のあきる野市」というまちづくりを推進し、関連した施策が打ち出されています。とりもなおさず私たち教育委員会は、もともと子供が主役の仕事をしているわけですから、本当にありがたいテーマで市が動き出したなと思って喜んでいるわけです。そういったことをどんどん進めていこうということで、6 月 15 日の「広報あきる野」の 1 面に「あなたのキャリア子どもたちのために生かしませんか？」「地域力で育てよう「あきる野っ子」」という見出しで、1 面いっぱい子供を育てる地域のリーダーを募集しますと掲載しました。そのために研修をして、研修が終わった人には認定証をお渡しするという取り組みが始まったわけです。大変素晴らしいことですし、ぜひたくさんの方に応募してもらって、市長から認定証をもらって、そして地域で子ども育成リーダーになっていただき、地域の中で子供を育てるという役割を果たしてもらいたいなと思います。どんな力を発揮してもらおうかということ、さまざまな人が地域の中で子供を育てるという視点があります。現在でも例えば子供の見守りや、スポーツや文化的な活動、郷土芸能ではあきる野市は大変力強い支援をいただいています。地域で子供を育てていただいているわけですが、特に今年は学力向上対策を強化していくという、私たち教育委員会の大きなテーマがあるわけです。地域の子ども育成リーダーに学力向上の支援ができる人がたくさん応募してもらえるといいなという思いも実はあります。そういう人たちにたくさん応募してもらうことによって、学力向上のための土曜日の授業や放課後の活動など、いろいろできることがあると思います。学校は学力向上のために当然努力をしていますが、授業時間外に地域を挙げて子供に学力をつけていくことにも、この子育てリーダーの応募としてたくさん来てほしいなと思います。どうしたらそういった方に応募してもらえるか、皆さんからお話を聞きたいなと思って、提案したわけでありまして。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。いかがでしょうか。今、教育長から主旨説明と学力向上に絡めた施策に展開していく可能性があるのかどうか。そういった人材を確保できるのか、できればそういった方面を目指して進んでいきたいというお話がありました。私もそう思いますが、何かご意見ありますか。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

今教育長から学力の支援に地域の力を活用していきたいというお話がありました。地域子ども育成リーダー制度のお話を聞いたときに、取り組みやすいものとしてまず頭に浮かんだのは、子供の登下校の見守りです。またいじめなどを地域の方が発見した際には、それをすぐに学校側に知らせていくことができたらいいなと。今もちろん登下校の見守りをやっていますが、それ以外の一般市民の方にも、自分たちがあきる野っ子を育てていくという思いを広げていけたら、意識づけにもなって、犯罪の防止に非常に役立つのではないかと思います。

今教育長から学力向上に関してというお話がありました。おそらく学校の先生方が今教えていることと、地域の方が以前に学んだことというのは、学校での教え方も変わってきていると思います。今回この育成リーダーに登録するに当たって、子供とのかかわり合いなどについて学ぶ研修が2回あるとのことでした。ですが、学習支援となると、また別に研修などが必要になってくるのではないかと個人的には思います。

学力からは離れるかもしれませんが、地域の方に学校に教えに来ていただくのを、例えば年に1回なり学期に1回なりにして、その中で自分の経験や知識を子供に教えるというのはどうかと思いました。いろいろな学校で日本の伝統芸能や昔遊びを教えてくださいたいと思います。それに関連させて、例えば、ドイツ語が堪能な方に、子供に外国に対して興味を持つきっかけとなる授業をしてもらうのはどうでしょうか。今地域に豊富に人材があると思うので、活用していくのは非常に良いことだと思います。ただ、学校で先生方のように勉強を教えるのに地域の方を活用するには、そのための研修などがないと、いきなりというのはちょっと難しいかなと思いました。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

ほかにいかがですか。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

田野倉委員もおっしゃったように、スクールガードリーダーや学校安全ボランティアの方もいますが、目の行き届かない箇所もあるかと思います。親としては、ここにも立っていただけると登下校が安心だということもあるので、このリーダー制度を利用してやっていただけたらと思います。それ以外に、学校の中で野菜や花、蚕を育てる授業があります。蚕を飼うのでも、子供が持って帰ってきて育てるんですが、桑の葉がないんですね。あきる野市内を車で探して回りました。あっても私有地だったりして、なかなか集められなかったんですね。そういう面でも協力を仰ぐことが当然できるかと思います。実際に野

菜をつくるのが得意な方もいらっしゃるでしょうし。学校の要請がなければならぬとは思いますが、そういう野菜づくりを子供たちと一緒に一からやっていただければいいと思います。また習字や裁縫、料理などを家庭科や技術家庭で、地域のキャリアを持っている方に授業をしてもらったり、先生の補助に付いてもらうということもあり得ると思います。

それから、もし放課後や土曜日に活動されるのであれば、田野倉委員もおっしゃっていましたが、事前の研修は必要だと思います。ある程度各分野の経験を積んだ方が地域にはいらっしゃるのですが、子供のために何かしたいと思っている人もいます。そういう人がある程度集めて、各学校に何人か配置して、事前学習として、この単元のこの部分をやってほしいとか、朝学習でできなかった部分の振り返りなども手伝っていただくというのではないかなと私は思っています。

以上です。

委員長（山城清邦）

ありがとうございました。

丹治委員、どんなイメージをお持ちですか。

委員（丹治 充君）

育成リーダーの方は、いろいろな分野で子供たちに教えることは可能だと思います。例えば、先ほど教育長からお話のあった学習支援については、東京都の退職された教員の方に登録をしてもらって、必要な学校には派遣する。そういった名簿がもう既にできていると思います。例えば、あきる野市版で退職した教職員の方に登録していただいて、基礎、基本が身につけていない生徒、学校のほうでも心配なお子さんについては、放課後いつでも、場所と時間がとれて、きちんと取り組むのならば、私は可能だと思います。

もう一つは、スポーツ教室なども、いろいろな体協組織の中で各競技部が競技者の底辺拡大ということで、スポーツ普及の取り組みを現在やっています。そういった意味では、運動が苦手だという子供たちを受け入れてもらえる基盤は既にあると思います。また、伝統文化にしても一部の地域は、町内会や自治会含めて普及させていますけれども、他地区でもぜひやってみたいという子供たちもいるんですね。そういった子供にも教えて戴ける広報活動をもう少し丁寧にやることによって、教えたいと思っている人をリーダーとして養成できるのではないかなと私は思います。講習については、やはりあきる野市は特別支援教育を全面に出していますから、子供たちを尊重した一律ではない指導になりますので研修は、私は大事だなと思います。

誰でも子供たちと接する、かかわることができる形になると、安心・安全の点から子供との接し方という研修が必要だと思います。学校の中にいる部活動指導員の方でも再確認して指導をしていただく場面がありますので、外部からお願いをして来てもらうという関係では、この研修が非常に重要になってくると思います。導入当初はいろいろな支障があると思いますが、ぜひこのあきる野市版を計画どおり実施していただけたらと思います。

委員長（山城清邦）

今のお話を聞いていますと、スクールガードリーダーや見守り隊など、既に活動なさっている方々を新たに再編成する意味もあるのでしょうか。それとはまた別のものになるのでしょうか。

教育長（宮林 徹君）

今言ったような活動というのは、あきる野市は既にやっているわけです。例えばスクールガードリーダーもいるし、地域の安全・安心のための活動は、地域によって差はあるにしても、相当な人がエネルギーにやってくれています。アスポルトというのもあって、放課後子供教室などでクラブチームをつくって、公なスポーツ活動をさせているよね。ただ、今回は地域で子供を育成していくリーダーを100人近く募りたいと言っているわけです。それは今言ったように安全・安心の問題やスポーツもあると思います。私は、その中に勉強を教えられるという人がいていいと思います。先ほどの田野倉委員の事前活動の話は、年配の方を想定しているんじゃないかな。だから、勉強し直さなきゃ教えられないということになると。そうじゃなく、今現在教員補助員として教えている人もいっぱいいるわけです。そういった人たちにも応募してもらうよう意図的に応募してもらうとか、あるいは、せせらぎ教室に指導員として在籍していて、不登校の子供に勉強を毎日教えていると。そんな人に、このリーダーになってみたらと言ってみるとかね。そうすれば、若い人だって相当数いるはずですよ。何も退職した先生だけをターゲットとするじゃなく、若い人でも、仕事がこの日だったらあいているから勉強が教えられるよとか、塾の現職の先生だっていいと思うんです。田野倉委員に来ていただいたっていいと。そう思ったときに、学力支援ができる人材というのは必ずいるなと。学力支援というのは、どんどん新しいことを教えるということではなくて、勉強の遅れがあるけれども塾へも行けずにいる子に、先生がやろうよと言って、土曜日に補習授業をやってあげるとかね。そういうことを、このリーダーでできないかと。先生が身分変えてやってもいいけど。

委員長（山城清邦）

大学生でもいいわけですよ。

教育長（宮林 徹君）

そうですね。勉強の遅れている子供の支援をするために、リーダーになってもらうと。退職して何かやりたいと思う人が、応募してきます。今取り組んでもらっているものと重複してもいいんです。あきる野っ子を育てるんだから。私は、学力という点に絞って、育成リーダーとして意図的に応募してくれないかなと。意図的に、校長先生方からでも、そういう人がいるよと、ぜひ推薦してもらうと。

委員長（山城清邦）

自治体によっては、広く学生まで声をかけて募集して、学校の中、教室の中に入ってもらうと、支援活動をしてもらっている自治体もありますよね。

教育長（宮林 徹君）

丹治委員が言われたように、退職校長会や退職公務員連盟というものがあって、それぞれ、どんなことならできるという一覧表があるんです。私も、もしできることがあったら書いて出してくださいと言われて、以前は出していました。その中には、学習支援で登録している校長先生方もいます。そういう先生にやっていただくのも、一つの方法ですよ。事前の研修の中で特別支援教育の理念はしっかりたたき込んで、学習支援をして欲しいと。若い人も、年配の人も、それはできると思います。特に私は、先生になりたいと思っている学生が応募してこないかなと思っています。

委員長（山城清邦）

いいと思います。

教育長（宮林 徹君）

そういう人が勉強教えればいいんです。補習授業だから、問題ないと思います。

委員（宮田正彦君）

今のお話ですが、私はそこまで考えが及んでいなかったもので、子供もいるし、何か私にできないかなと思っています。学芸大でもそういった組織を組んで、地域の学習をしたくてもできない子に、グループ学習で補うような取組を既に始めているそうです。地域には、将来的に教員を目指している人も当然いるわけですから、そういう人たちも当然応募されると思います。ただ、この広報だけですと、そういう方を対象にしているとはわかりにくいのではないかと。おそらく学生が見ても、自分たちも対象だというのがわからないのではないかと思います。

委員長（山城清邦）

わからないでしょうね。

委員（宮田正彦君）

もう少し掘り下げて広報活動しないと、そういう方たちが入ってこないんじゃないかと思っています。

委員長（山城清邦）

この広報を読んでいますと、20歳以上であるとか、子供の育成に関わっている方、関心のある方。それから、活動内容が見守り活動や学習、スポーツ、郷土芸能となると、かなり幅も広くて、既にやっている方がたくさんいらっしゃるかと思います。そういった方々を、先ほどお話にあったように再編成すると。イメージとしては、人材バンクのように問い合わせをしたら、条件に合った人を派遣してくれるということになるのでしょうか。それとも、今いる方々とは別に新たに設けるのでしょうか。

委員長（山城清邦）

森田部長。

教育部長（森田 勝君）

以前、私が子育ての部署にいた際から話がありましたが、育成リーダーの方に報酬等を支払うかどうか、明確に把握しておりません。予算としては地方創生から、この事業に対して補助金を申請するという考え方はあるそうです。報酬等については、広報にその記載が全くありませんので、完全なボランティアということだと思います。今現在、放課後の子どもの健全育成のために児童館学童事業が既にあります。また、子供たちの健全育成のためにどうしたらいいかという話の中に、生涯学習所管で文部科学省の事業である放課後子供教室があります。この、児童館、学童クラブ、放課後子供教室で当然お金を使っています。そういったお金を地域の方々、ボランティアの方々にも支払っていいんじゃないかという発想が、以前に私がいた当初からあります。やはり有償ボランティアでない、事業的に長続きしないんじゃないかということで、放課後子供教室の場合は有償の方もおります。

生涯学習担当部長（関谷 学君）

コーディネーターと安全管理委員は有償で、地域ボランティアの方は無償です。

教育部長（森田 勝君）

無償でも今動いていますが、やはりある程度お金を払うということも一つ視野に入れて、例えば今お話のあった学習支援の方には一定の報酬を支払うということも当然ありではないかと。また、先ほど丹治委員からお話のありました場所と時間を、どう準備するのか。場所については、大きな問題があります。児童館でやればいいのかというと、そうはいかなくて、学校の余裕教室を使うかどうかという問題もあります。本来は学校の中で、放課後学習支援ができれば一番いいと思います。今後の問題としては、報酬と場所があります。今の段階では、そこまで想定していません。今回特に、市長の意向もあって「子どもが主役のあきる野市」という中で育成リーダーをやろうと。既存の安全ボランティアの方なども対象となって、重複する可能性もありますが、市民の方に、そういった意識を持ってもらいたいというのが創設の大きな一因です。今後、取組と並行して仕組みづくりをしていきますので、そういった部分で、広報を一読しただけではわかりづらい部分がございます。担当の方でも、その部分、報酬や場所について検討をしていくだろうと思います。

委員長（山城清邦）

80人枠を設けていますよね。

教育部長（森田 勝君）

はい。各回80人ずつです。現在57人の申し込みがあると聞いております。100人程度は何とか確保したいそうです。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

今の段階で、申込者の年齢層というのはわかりますか。

教育部長（森田 勝君）

聞いておりません。

教育長（宮林 徹君）

これは、あきる野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の施策の中の大きな事業として、重点的に取り組もうとする事業があるわけです。その1つ目が企業誘致事業。これから将来を見据えてどうするかということ。2つ目が、地域資源を活用した観光振興事業。3つ目が、新規就農者マッチング事業。4つ目に、地域子供育成事業というのがあって、その中に地域子ども育成リーダーを養成するという項目があるんです。5つ目は、子育て保育環境整備事業。この5つをやるんです。私は、先日の総合教育会議の際に、学力向上に取り組む事業を6番目に入れてくれという発言をしました。結果的に、4番目の地域子供育成事業の中でその学力の問題も取り組んでやっていけばいいんであって、あえて6番目には入れないということでした。だったら、ここで徹底的にやってほしいなど、私は思うわけです。この広報の記事では、学力をつけるために応募しようという人はいないので、私は危機感を感じているんです。今、あきる野市の教育委員会は、学力向上対策をメインテーマにしようとして、取り組みをしているわけです。もちろん先生方も夏休みの補習授業を相当やってくれています。それ以上にやれる先生や、こういうことの中から人材が活用できないかなというのが、私の今日の提案です。このままだと、違った支援をする人が圧倒的に多いですね。それはいいんです、それでも。ただ、先生になろうと思っている大

学生から、学習指導の支援に力を発揮させてください。先生になる勉強をしたいとは、今のままだったら誰も言うてはこないよね。

委員長（山城清邦）

そういう文言入っていませんものね。

教育長（宮林 徹君）

それをここに私は入れたいんです。そのくらいやらないと学力は上がりません。学校の先生は当たり前以上にやるけど、地域を挙げてやらないと、あきる野市の学力がどんどん画期的に上がっていきなっていくことは期待できないよね。家庭学習に期待することが、私はできないです。家庭学習をしっかりしましょうといっても、する子はするけど、家庭学習に丸投げして頑張れよとはできないですよ。家庭学習を補う意味でも、活躍させるために意図的に選びたいんだけどね。放っておいたら申し込みは絶対ないと思うから、あえて今日大きい声でどうですかと言っているんです。

委員長（山城清邦）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

今の教育長の話ですと、やはり事業としてやっていきたいということですよ。そういうことであれば、今現在のままでやはり難しいと思います。先ほど私が言ったのは、昨年、生涯学習の方で生きがいについて調査、アンケートをしていましたよね。そのときの調査結果で、やはり人のために貢献したい、自分の生きがいとしたいという方が、結構な数いらっしゃいました。当市については、学力向上対策をやっていかなきゃならないということであれば、やはりこの中に位置づけて、一事業として展開していけば、まとまると思います。誰かいませんかと手を挙げる形では、難しいのではないかなと思います。

以前、東京27市だった頃、27市の学社連携ということで、多摩地区の大学生たちに小中学校で、ボランティアで教員補助員等の経験をしてもらおうという動きがありました。ある市では、募集したところ学生の応募がありました。その市は、無償という場合もあるけれども、そもいかないうことだろうということで、交通費の代わりに図書券を配ったそうです。もう一つ問題になったのは、保険の関係でした。ですので、本市でも、もし取り組んでいこうということであれば、教員志望の学生さんはもちろん市内にいらっしゃるでしょうから、学生にとっても、教員の勉強もしながら、子供たちとの接し方のいい勉強になると思います。それこそ育成リーダーが1人、2人と育っていくのではないかなと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

ひとまず各会場で80人、全部で160人募集すると。毎年募集するというのではなく、展開を見ていくということなんでしょうか。

森田部長。

教育部長（森田 勝君）

今回の状況を見て、当然これ毎年やっていくんだらうと思われま。先ほどの無償か有償か、また、今丹治委員からお話ありました交通費や保険の関係も担当の方で調整をする

ようだと思います。当面は無償ということですから、すんでいくことになるかと思っています。

委員長（山城清邦君）

教育長がおっしゃった学力の分野も取り込んでやってみるということは、とても大事なことだと思います。ただ、どのように展開するのか、各学校の先生がこういった人材が欲しいとなった場合に、窓口はどこになるのか、学校や児童館で展開することになるのかとか、いろいろな問題が出てくると思います。新しい経験と知恵を出していけばいいのかなという感じはいたします。広報を見ている限りでは、学校に対する学力を向上させるためのリーダー的役割というものは伝わってこないの、応募された方にやっていただきたい旨を伝えて、やりますという方をピックアップすることになるのでしょうか。次回募集のときには、また新たなキャッチフレーズで周知していくことが現実的ですかね。

教育長（宮林 徹君）

広報にリーダーの研修会参加者募集の記載がありますよね。

講師が東京学芸大学こども未来研究所の方とあります。1回目の研修では、「オリエンテーション」「教育支援者とは」「子供を取り巻く環境」とあります。私は、この「教育支援者とは」というのは、学力の話をしたから入れたんだと思います。この説明のときに、今ここで話し合ったようなことを言ってもらうように、こちらから働きかけるといいですよ。教育委員会では、教育支援者というの、そういうことだと思っていますと私は言おうと思っています。それで応募した人が、そういうこともあるのかと思って帰ってくれるといいですよ。

委員長（山城清邦君）

多方面の分野で、その力を発揮できる方がたくさんいらっしゃると思います。単なる研修だけではなく、認定されるということは、やりがいを感じられる制度になると思います。ただ、お話に出ていましたように、地域、学校、家庭とは言いますが、家庭で勉強しないから学力が向上しないと言っているのでは、百年河清を待つような話になってしまいます。そこ入れをするためにも、私はできたら大学生がなってくれるといいかなと思います。そういった方々がどんどん地域、学校周辺で活動する形に発展していくといいなと思います。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

5月に発行された教育広報に、教員補助員の募集記事があったかと思っています。今回ステップアップ事業の関係で、募集されたんだと思います。そういった場合、反響があつて応募される方が増えるのでしょうか。また、応募してきた方に面接をするかと思っています。そのことと、教育長が考えていらっしゃる学習支援者に対してそういった面接までは求めず、本人の自己申告でお願いする形になるのでしょうか。その辺、自己申告のみだと、危険性があるかなと思いました。

教育長（宮林 徹君）

教員補助員に応募するような人が、これにも応募してくれたらいいなと思いました。先生になりたいと思って一生懸命勉強している人も、応募してくれたら教員試験も受かると思います。せせらぎ教室にいる人は、2年もいたら教員試験に受かっちゃいます。そこで勉強しますから。私は本当にまさにリーダーを育成できるのではないかということです。

委員長（山城清邦君）

肝付部長。

指導担当部長（肝付俊朗君）

田野倉委員からお話のありました学力ステップアップ推進事業の関係で、20人近くを新規に募集します。それは、教員補助員としての補助や、放課後の補習や長期休業中の補習のために必要になります。ところが、学校の現場ではまだまだ足りないというお話です。私どものほうで話をしているのは、今教育実習生が来ていますので、実習後も補助員として学校とかかわって欲しいということで、学校からもお話をしていただき、勤務してくれている方もいます。推進事業では、時給960円をお願いをしています。いずれにしても、あくまでも学生なので、教員の補佐になります。1人で授業を預かるということになると、先ほど委員からお話ありましたように、指導力のある人でないと難しいだろうなと思います。放課後や土曜日に1人で子供たちの面倒を見るということになると、ある程度の力が必要になります。先ほどお話ありましたが、学習塾関係や、現役で指導されている方ですと、非常に力になっていただけるだろうなと思います。

教育長（宮林 徹君）

私は、これは今日結論が出る話じゃないと思っています。しかし、このことについては素通りしないで欲しいんです。学校ももちろん本気になって頑張ります。この取り組みが成功したら、素晴らしいと思います。地域で教える人がいっぱいいるということは素晴らしいなど。力のある指導者をたくさん育てるということは、教育委員会の大きな役割になってきます。そのぐらいのエネルギーを持って教育行政を推進していくことは、ダイナミックでいいなと思います。市長も子供を大事にとっています。願ってもないことですよね。話し合いはしておいたほうがいいです。今日はいろいろな意識をみんなを持って、どうしたらやれるかということ、ぜひこれからも話し合っていたきたいと思います。

委員長（山城清邦君）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

研修終了後、実質的な活動はいつ頃からになるのでしょうか。

委員長（山城清邦君）

森田部長。

教育部長（森田 勝君）

私の方で確認したところだと、今回、市全体に募集をかけていますので、特に想定をしたものがないそうです。基本的には、今現状で活動されている方が応募されて、その活動を継続してやってもらいたいと。専用のロゴマークのついたジャケットを着て、活動してもらいたいそうです。先ほど、委員から学習支援というお話もありましたが、現状いみせんので、おそらく応募はないかと。応募した動機として、例えば今交通安全のボランティアなどをやっているから、研修を受講して、ジャケットを着て活動するようになるのだと思います。今日各委員さんからのご意見を、担当課の子ども家庭部に報告させていただきます。教育委員会の考え方を次回育成リーダーの募集をかける際に、反映して欲しいと。そのためには、場所の確保など、具体的な提案をしていかないとならないんじゃないかと

思います。特に学習支援については、教育委員会としてお願いをしていきたいと思っています。

委員長（山城清邦君）

もしかすると、まだそこまで具体的なことは想定されていなかったかと思います。ですが、既に活動いただいている学校の支援者との関係をどうするかなど、全体の力をもってステップアップしていくために、十分考慮していただけたらと思います。よりよいものが実現するよう、教育委員会としての希望もぜひ実現するよう、有機的なものとして取り込んでいってもらいたいということをお願いしたいと思います。

ほかに何かご意見ございますか。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

例えば、遅れている子の学習支援をしたいという人がいた場合、学校の先生側としては、自分たちが教えているやり方と同じやり方でないと困るとか、そういったことはないのでしょうか。学校側は統一の方法で教えていますよね。うちの学校ではこういうふうにして欲しいと。放課後や週末に、補助的に学習支援をすると認定された方が教えることになった場合、教え方や授業の進め方について、学校側と指導や研修、教える内容について打ち合わせをする時間を設けなくてはいけなくなると思います。学校側の負担が増すということはないのでしょうか。

委員長（山城清邦君）

肝付部長。

指導担当部長（肝付俊朗君）

協議や打ち合わせの時間というのはやはり必要だと思います。ただ、教える内容としては基礎、基本でそんなに難しいものではないと思います。ただ、子どもの特性について、こういうふうにお願いますという注意事項があるかだと思います。そういった確認をした上で、歩調を合わせるということは当然必要になると思います。ただ、それを負担として感じるのか、それともそれを当たり前と思うかということだと思います。できれば後者の、子どもたちのために共通理解を持ちながらやりましょうと、一緒にやっていただきたいなと思っています。

委員長（山城清邦君）

森田部長。

教育部長（森田 勝君）

先ほど場所の問題というお話がありました。学習支援ということになりますと、当然どこでやるかという問題があります。先ほど少し申し上げましたが、余裕教室があればいいのですが、現状ございません。ない中でどうするか、私が各学校を見る中で思うのは、例えば少人数教室が使えるのではないかということです。ただ、この事業は市長部局の子ども家庭部でやっているものです。学校内に他の所管の事業が入ることについて、学校を管理する各校長の考え方になるかと思います。放課後の時間は、あるところまでは学校が管理し、そこから先は子ども家庭部の育成リーダーが管理すると。この時間の子供の管理をどう考えるかという部分も当然出てきます。そういう点でも、各学校の校長先生方のご意見

も踏まえながら子ども家庭部と対応を協議して進めていきたいと思っております。

委員長（山城清邦君）

整理しなくてはならないところがたくさん出てきますね。

教育部長（森田 勝君）

はい。

教育長（宮林 徹君）

毎日毎日放課後に勉強するのにこの人たちにやってもらうなんていうことは、現実問題としてはそんなにないです。放課後の補習というのは、原則先生がやればいいんです。放課後の3時から5時ぐらいまでの勉強というのは、先生の勤務時間内ですから先生がやればいいんです。土曜日に、こういった方に来てもらってやると。土曜日誰が鍵あけるのかという問題もあるけど、それはまた別として、毎日の放課後の勉強というのは、先生がやればいいんです。先生がやらないで他の人にやらせると、かえってレベルが下がってしまうと思います。私は、土曜日も学校の教室を使えばいいと思います。土曜日や日曜日は、空いているんだから。しかも、希望者ではなく、先生方がこの子には補習授業やったほうがいいだろうと思う子供を選んで、勉強したほうがいいからおいでと来させてやらせたらいいと思う。6年生と1年生では教える内容も違うから、具体的、技術的なことはあると思います。すぐに結論は出ないけれども、私にとっても、教育委員会にとってもそれぐらい重要な問題です。

委員長（山城清邦君）

よろしいですか。

いろいろとご意見ありがとうございます。これから発足する事業ですので、わからない点も、子どももイメージを描き切れないところもたくさんありますけれども、今日は特に学力の問題を担う力として期待したいという、その場合にどういう形態が考えられるか。その望ましい形態を実現するためにはどうしたらいいのか。どういう問題があるのか。そういった重要な問題提起ができたのではないかなと思っております。よろしいでしょうか。

《はい》

委員長（山城清邦君）

それでは続きまして、日程第2 報告事項（1）、平成27年度中学生海外派遣事業の実施中止について、報告者は説明をお願いいたします。

鈴木課長。

生涯学習スポーツ課長（鈴木将裕君）

お手元の資料、平成27年度中学生海外派遣事業の実施中止についてをご覧ください。市では、平成27年度あきる野市中学生海外派遣事業の実施に向けて調整を進めてきましたが、今年5月16日にマールボロウ市から、「マサチューセッツ州を訪問する生徒（及び随行者）が現地生徒と同じ予防接種を受けていない場合、教育施設内に入ることを禁じる規則が新たに設けられた」との連絡が入りました。この知らせを受けて、今年度の事業実施について検討、調整を行いました。短期間に複数種の予防接種を複数回接種することのリスクや費用負担増の問題の発生、派遣までの期間内に各種要件を満たすことができないということなどを考慮いたしまして、平成27年度あきる野市中学生海外派遣事業につ

いては中止することを決定いたしました。

なお、受け入れ事業につきましては、予定どおり実施いたしますので、ご承知おき願いたいと思います。

また、平成28年度以降の国際姉妹都市交流事業につきましては、今後改めてマールボロウ市側と協議していくこととなりますが、当事業につきましては、外部団体の協力を得ながら教育交流として継続してきた経緯がございます。このような経緯も踏まえた上で、あきる野市教育委員会としての考え方をまとめるために、教育委員の皆様と教育委員会、そして外部団体の方を交えて、今後の国際交流事業のあり方等についての話し合いの場を設けたいと考えています。日程等につきましては、今後調整しご連絡させていただきたいと思っておりますので、その際はご協力をお願いしたいと思います。

報告は以上です。

委員長（山城清邦君）

説明が終わりました。なにかご質問ございますか。

教育長（宮林 徹君）

補足すると、今年はまだ仕方がないので実施中止を決めましたと。来年からどうするかという話をしないといけないねということです。来年どうするかについては、もう取り組みを始めないとはいけません。そんなことを考えたときに教育委員会としての考え方を、しっかりと話し合いをしておいたほうがいいんじゃないかということで、報告事項としてだけども、話し合いをしましょうという提案です。その際に教育委員5人だけでなく、マールボロウの派遣事業については、国際化推進青年の会やホストファミリークラブという、本当に力を発揮して支援してくれている2つの会があります。新しい会長や副会長が決まったようだから、その方にも来てもらって、来年からどうしようかという話し合いをする会を持ったらどうかと私は思っています。別に相談することはなく、私たちが決めればいいんだということでもないと思います。今まで会の方には色々お世話になっているので、ぜひ意見を聞いてみたらと思います。

委員長（山城清邦君）

今年度はやむを得ないにしても来年度以降については、これまで築いてきたつながりがありますので、来年度以降も実施しないということは忍びないと思います。田野倉委員、色々マールボロウの方ともお知り合いだと思いますが、この件について何かご存じのことありますか。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

公私分けるようにということで、個人的な内容のメールにはこういった公の話は全然ありませんので、特に話は聞いていません。個人的に今意見を言わせていただければ、もちろんこのままこの事業が立ち消えになってしまうのは本当にもったいないことですし、何年も続いてきて、中学生の中にも来年になったら行ける、小学生の中にも中学生になったら、こういう事業があって応募できるんだというのを楽しみにしている生徒、児童もいらっしやいます。このままの形で継続するということは難しいと思うので、形を変えてでも継続していただければと思います。受け入れは今年予定どおり実施ということですので、受け入れのほうだけでも最大限に活用できるよう、各学校にはせつかくのこの機会をぜひ

有効活用していただけるよう、学校を挙げて取り組んでもらいたいということでお話しただければと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ほかに何かご質問やご意見ございますか。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

今回中止に至った理由としては、予防接種の関係ですね。派遣までに、予防接種が間に合わない、あるいは続けて打つことができたのかどうかわかりませんが、常識的に考えれば連続して予防接種を打つことはできないだろうから、物理的に今回の実施は無理だったという判断ですよ。

生涯学習スポーツ課長（鈴木将裕君）

はい。

委員（丹治 充君）

だとすれば、今年度何をクリアすれば来年度は実施できるのか。その辺、予防接種の種類や、受益者負担の原則で考えるのであれば、予防接種の費用がどのくらいかかるのか。その辺も含めて、次の話し合いのときに材料として挙げていただけると判断もしやすいんじゃないかと思います。

以前はサーズウイルスの問題がありましたが、最近でもマーズウイルスの関係もありましたよね。こういった問題というのは、臨床的に解決されないと対処の仕方がわかりませんし、来年も非常に心配な点がたくさんあるかと思います。その辺も見通して資料を集めていただくと大変ありがたいです。

生涯学習スポーツ課長（鈴木将裕君）

外部団体との会議の場では、そのあたりの資料もそろえてご提出したいと思います。よろしく願いいたします。

委員長（山城清邦君）

宮田委員、いかがですか。

委員（宮田正彦君）

子供も楽しみにしているので、何らかの形でそういった交流ができるといいなと思います。ぜひお願いしたいなと思います。

以上です。

委員（丹治 充君）

来年応募するに当たっては、予防接種もパスすることが一つの条件になってきますよね。

教育長（宮林 徹君）

それはマールボロウの学校へ行くということなら、教育施設内に行くということになれば必要だけだね。教育施設に行かなきゃだめかとか、そういった話し合いもしたいよね。

委員（丹治 充君）

今までは、学校を訪問するということが大きな趣旨でしたよね。もしもそれがなくなるとすれば、マールボロウの訪問について根本的に考えていかななくてはいけませんね。今ま

でのようではだめだということですよね。

教育長（宮林 徹君）

それをこれから、学校へ行かない限りは、マールボロウへ行く意味がないと考えるのかどうか。国際交流という点では、アメリカの地へ行ってアメリカの空気を吸うことだけだつて、はるかに勉強になるんだという考え方でいけば、注射なんか打たなくて行けるところをセットしてもらって行くということだつていいじゃないかと。そういうやり方もあるんじゃないかということも含めて検討したほうがいいと思うんだよね。6、7万円もする注射を打って行っても、飛行機乗って現地行ったら体調が悪くなるなんていうことだつてあるかもしれない。だから、大変なことだと思ふんですよね。打たないで行く方法がないのかといたら、学校に行かないという選択肢もあるわけです。

委員長（山城清邦君）

ホームステイだけにするとということですね。

教育長（宮林 徹君）

ほかの観光地も見たりね。それはそれでできるんじゃないですかね。

委員（丹治 充君）

マールボロウの学校へ行かないとすれば、今度は受け入れが、今の団体だけで受け入れてくれるかどうかもありますよね。受け入れ時のホームステイ先の募集が大変だったのではないかと私は感じているのですが。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

おそらく去年から受け入れ時のホームステイ先については、かなり手が挙がるようになってきていて、受け入れたいのに受け入れられないという家庭も出てきている状況だったかと思います。

委員（丹治 充君）

では、来年もその心配はないですかね。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

おそらく。今年の募集状況がわからないので、なんとも言えませんが。

教育長（宮林 徹君）

マールボロウに行ったときに、ホームステイで受け入れてくれるお家も、昼間は子供が学校へ行っているからよかったんだと思います。学校に行かないとなると、ホームステイ先の子供と一緒にどこか見学するとか、いろいろな体験をするとか、今までとは違うメニューをつくってもらいたいということもあると思います。

委員長（山城清邦君）

そうですね。

教育長（宮林 徹君）

図書館は教育施設じゃないのかとか、いろいろあると思います。テーマパークばかり行っても仕方がないですし。交流という点では、学校以外の所へ行くことも交流だという考え方もあると思うんですよね。

委員長（山城清邦君）

日中の行動については、主体的にこちらのほうで計画しないと、マールボロウに計画し

てもらおうというのは、ちょっと厳しいですかね。いずれにしても、外部団体の方々とも話し合いをするということによろしいでしょうか。

生涯学習スポーツ課長（鈴木将裕君）

いろいろな意見を出し合っていて、委員会としても方向性を出せればと考えています。その上で、交流事業全体の話については、企画部門を含めてマールボロウに提案する形になると思います。まずは皆さんと話し合いの場を持っていただければと思います。

委員長（山城清邦君）

会議はいつごろになりますか。

生涯学習スポーツ課長（鈴木将裕君）

7月上旬にできればと考えています。

外部団体の方にはこのお話、これからになります。候補日を幾つか挙げて教育委員の皆様にお示しして、日にちを決定したいと思います。

委員長（山城清邦君）

ほかによろしいですか。

《はい》

委員長（山城清邦君）

それでは、本件は報告として承りました。

最後に、教育委員報告です。教育長からお願いいたします。

教育長（宮林 徹君）

私のほうは、ここにあるように、いつものとおりです。特に今月は議会月で一般質問、各種常任委員会がありました。教育委員会関係の質問もたくさんありましたが、課長、部長がしっかりと、教育委員会としての答弁がなされていたと思います。いつもどうしても学校教育関係の質問が多くて、とりわけ肝付部長の答弁が圧倒的に多かったです。どんな質問でも立派な答弁で、文句のない答弁で、大変充実した議会でした。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

委員の皆様方、今月の活動の中で、これというものがありませんでしたら、お話しいただければと思います。

教育長（宮林 徹君）

もう一つ、追加です。今日の午前中、御堂中学校の山本副校長と五日市中学校の高島副校長が来ました。西多摩中学校副校長会の会長に御堂中の山本先生がなって、副会長に五日市中の高島先生がなると挨拶に来ました。西多摩中学校長会の会長は、五日市中の曾我先生がなっていて、中学副校長会には副校長2人がなっています。特に五日市中は校長、副校長の2人だから忙しくなると思うけど、頑張ってくださいとお話をしました。

委員長（山城清邦君）

中学校長会の会長となると相当忙しくなるのでしょうか。

教育長（宮林 徹君）

そうですね。西多摩全体ですからね。

委員長（山城清邦君）

副校長会はいかがですか。

教育長（宮林 徹君）

副校長会は1カ月に一回ぐらいずつ定例会がありますね。

委員長（山城清邦君）

他に今月の活動の中で何かございますか。運動会もありましたし、市P連の総会もありましたよね。

宮田委員、関東甲信越静の長岡市への出張はいかがでしたか。

委員（宮田正彦君）

まず、文科省の方からお話がありました。資料を色々ご用意いただいていたんですが、ほとんど資料にないお話だったので驚きましたが、わかりやすいお話でした。

河井継之助の記念館の館長からは、長岡市の風土と教育にかかわったお話をしていただき、大変おもしろく、勉強になりました。

委員長（山城清邦君）

私も宮田委員とご一緒しました。小林課長が往復長岡市まで運転してくださいました。長距離をありがとうございました。宮田委員がおっしゃられましたように、講演会で河井継之助記念館の館長が米百俵など、長岡のことをお話ししてくださいました。やはりすごいなと思ったのは、明治維新のときに官軍に刃向かって破れて焼け野原になってしまったと。なおかつ、また第二次世界大戦時の空襲でも市街地をほとんど焼失したと。その中でも、脈々と江戸時代の藩校の精神を受け継いでいる、地域の伝統や歴史が素晴らしいなどと改めて感心して帰ってまいりました。大変有意義な研修会だったと思っております。

以上です。

よろしいですか。

田野倉委員。

委員長職務代理人（田野倉美保君）

一昨日、屋城小学校の道徳授業地区公開講座に行かせていただきました。道徳が今後教科化されるということで、先生方すごく準備をされて授業に臨まれていたと思います。通常の算数や国語などの教科以上に、道徳というのは、その先生の力量が反映されてしまうものだというのを本当に感じました。3年生、4年生の授業を見させていただきましたが、どの先生方も生徒の心をつかむのがすごく上手で、みんなが集中して、先生の話聞いていました。物語を読んで、その主人公がどんな気持ちだったのかなという話をしていましたが、本当に生徒の心を引き込むのがうまいというか、素晴らしい授業だなと感心しました。道徳授業後の懇談会に出席する保護者が少ないとお聞きしていましたが、ちょうど保護者会の日と同じ形でやっていたので、教室に入れないぐらいたくさん保護者が道徳授業を見にいらしていました。その後の保護者会には私は出席しなかったのですが内容はわからないですが、保護者会の中でも授業のことなどを話していただいたのであれば、非常に効果的だったのではないかなと思いました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

丹治委員、よろしいですか。

委員（丹治 充君）

私は、運動会での印象ですが、同じ校種で保護者の学校へ来ている割合が、学校によってまちまちだなと感じました。来賓の数もですが、明らかに地域性がよく出ているなという印象を受けました。

委員長（山城清邦君）

伝統校は見に来ての方が多く感じますね。

委員（丹治 充君）

そうですね。ある意味では、保護者にたくさん来てもらえるような方法を考えなくてはいけないのかなと思いました。

それと、宮林教育長もお話になっていましたが、一の谷小に大きなテントがありましたよね。

各学校回って、教育長からも町内会の協力という点でお話いただきました。それこそ地域でもって子供を育てていく、そういう雰囲気をもっと出るのではないのでしょうか。

委員長（山城清邦君）

屋城小もたくさんテントが並んでいましたね。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

その日はすごい炎天下でしたよね。増戸小でそのお話をしたら、その場にいらっしゃった自治会長さんたちが、やろうやろうと、もうすぐその場で話がまとまっていたようです。おそらく自治会の方は、学校から一言言われれば喜んで一肌脱ぐという気持ちがあると思います。ただ学校側も、なかなか頼みづらい、ちょっと遠慮している部分があるので、その辺もうちょっと連携をとれば、喜んでやっていただけるのではないかなと思いました。

委員長（山城清邦君）

増戸はフットワークがいいですからね。

教育長（宮林 徹君）

屋城小では、それぞれの地域が児童の観客席などにもテントを張って日影にしておいてくれました。前田小学校へ行ったら、なぜかファーマーズセンターのテントがありました。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

お知り合いの方がいらっしゃると言っていましたね。

教育長（宮林 徹君）

本当に子供が大事にされているなと思いました。ほかの学校ができないわけないと思うんですよね。特に増戸は自治会長に言ったら、わかったと言ってくださったので、次回はそうなるでしょう。それが大変だと言ったのでは、「子どもが主役のあきる野市」を具体的に行動できないですからね。町内会などが集まる会でも話したいと思います。屋城小学校がどうやったのが不思議だね。

委員長（山城清邦君）

そうですね、見事ですね。

それでは、他にないようですので、これで教育委員報告を終了いたします。

それでは、事務局から今後の日程等について、ご案内をお願いいたします。

教育総務課長（小林賢司君）

それでは、今後の日程等につきましてご案内させていただきます。

明日6月26日金曜日は、増戸小学校の学校訪問があります。市役所を午前9時に出発しますので、よろしくお願いいたします。

7月2日木曜日ですが、東京都市町村教育委員会連合会研修推進会が午後2時から東京自治会館で開催をされます。山城委員長が推進委員となっておりますので、よろしくお願いいたします。詳細につきましては、後日ご案内をさせていただきます。

7月7日火曜日は、「いじめをなくそう子ども会議」が午後2時45分から市役所5階503、504会議室で開催をされます。

7月16日木曜日でございますが、東京都市教育長会研修会が午後2時から東京自治会館で開催をされます。今年度は東京都江戸東京博物館の竹内館長に講師をお願いし、「いまこそ日本の伝統文化を見直そう、オリンピック・パラリンピック教育を考える」をテーマに講演をいただく予定でございます。出発時間等詳細につきましては、後日ご案内をさせていただきます。

最後に、次回7月の定例会でございますが、7月23日木曜日午前9時から505会議室で開催をいたします。朝早い時間の開催でございますが、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

以上をもちまして、6月の定例会を終了いたします。

閉会宣言 午後3時25分